

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		第四回豊島区教育ビジョン検討委員会幼児教育部会 (幼児教育のあり方検討委員会《第 2 次》)
事務局(担当課)		庶務課
開 催 日 時		令和 6 年 8 月 30 日(金) 16 時 30 分～17 時 35 分
開催場		豊島区役所本庁舎 8 階 教育委員会室
議 題		1. 前回(6.17 開催の幼児教育部会)の振り返り ◆本部会のスケジュール ◆本区の幼児教育で目指す理念について ◆特別な配慮を要する幼児及び外国籍の幼児への教育について 2. 本区の幼児教育で目指す理念について 3. これからの幼児教育について
公開の 可否	会 議	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開 傍聴人数 0 人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会議録	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委員 (敬称略)	田代 幸代 箕輪 潤子 角本 史夫 山口 範子
	その他	教育部長、障害福祉サービス担当課長、子ども若者課長、子育て支援課長、子ども家庭支援センター所長、保育政策担当課長、保育支援担当課長、庶務課長、学務課長、指導課長、教育センター所長、区立小学校長、区立幼稚園長
	事務局	教育施策推進担当課長
欠席		保育課長

審 議 経 過

発 言 者	発 言 要 旨
事務局	挨拶 (議事 1.2 の説明)
田代部会長	本区の幼児教育で目指す理念について大変心強いそして的確な理念を整理して出していただけのように思っております。 また、6 月の部会でたくさん意見を出していただきましたが、それらについても丁寧に反映していただいているように思いますが、委員の皆様方、いかがでしょうか？
F 委員	基本的なところでは意見を取り入れていただいてこちらの方針で大丈夫かと思うのですが、一点気になったことがあります、教育大綱について申し上げても大丈夫ですか。 8 ページの方針 1 のところです。 ご説明いただいた点なのですが、小 1 プロブレムのことが書いてあり、幼児教育から小学校教育への連携・接続の目的は、第 1 に小 1 プロブレムが来るわけではなくて、幼児教育の中で培われた子供たちの経験や学びというものが、小学校で受け取られて、そしてそれが子供たちの小学校以降での学習活動に生かされるところが一番大きな趣旨かなというふうに思っています。 その点で小 1 プロブレムのことが少し強く書かれているような印象を持ちました。そのことを踏まえて、今回まとめてくださった理念「小学校へ円滑に接続する幼児教育」を読んだときに、小学校へ円滑に接続することの目的が小 1 プロブレムを防止することと読めてしまうような感じがしました。 その辺りについては説明をするときに、小 1 プロブレム防止が目的というよりかは、学びの接続がメインになるように説明をしていただけるとありがたいなというふうに思っております。
事務局	先生がおっしゃる通り、小学校への円滑な接続を行い、小学校以降での学習活動に生かされること目指すことが非常に大きいと思っております。小 1 プロブレムだけではないということは我々としても感じており、理解しているところでございます。 今後、教育大綱や基本計画などを策定する中で、頂きましたご意見含め修正等していきたいと思っております。

田代部会長	確かに小１プロブレムという言葉は少し古いという失礼なのですが、少し前に言われていた課題で、そこから近年では幼児期の育ちをどう児童期に繋げていくかというところに大きく転換しておりますので、修正が可能であれば、検討していただければと思います。 では、庶務課長お願いします。
庶務課長	まだ、素案の段階なので最終的に若干の手直しは可能ですので、いただいたご意見を踏まえて、関係部署と相談しながら修正させていただければと思います。
田代部会長	安心いたしました。 では続いてD委員いかがでしょうか？
D委員	前回のいろいろな話をしっかり踏まえたくえて幼児教育の方針を出していただいて、そこについてはすごくスーッと入ってまいりました。しっかりまとめたいただいたし意見も聞いてくださったのではないかなと思っています。 実は、F先生と同じところに引っかかりまして、やはり１年生になったときに先生の話の聞くとか、学習に集中するというのは確かに大切なのですが、１年生の子を見ていると先生の話の聞くだけではなくて、自分のことしか言わないため会話が一方通行になってしまい他の子供とうまく会話が成立しないとか、あるいは何か学ぶ楽しさをちゃんと身に着けていないのではないかなどと感じることもあって、小１プロブレムということでまとめてしまわない方がいいかなというのは私も感じていたので、そこは同感でございます。
田代部会長	では続いてQ委員いかがでしょうか？
Q委員	豊島区の幼児教育の方針を読ませていただいて、本当に幼児期に大切なことが全て入っているなというところを感じております。 その上で小学校に行くまでに幼児期を幼児期らしく過ごし、遊び込める子供たちが育てていけるといいなというところで、社会性もそうですし、全てその幼児期の学びが小学校だけではなく人生の糧となるのかというところを感じております。 遊び、それから絵本を国語の学習にも移行するなど、すごく大事な時期だなというのを実感しております。 以上です。
田代部会長	続いて区立幼稚園長はいかがでしょう？
区立幼稚園長	賛成です。 今回は幼児教育の特に理念ということで、全ての就学前の子どもが小学校へ円滑に接続するというところに区の方針として力を入れていることがわかりますが、幼児教育の対象を文部科学省が示すように３歳からにするのか、誰でも通園制度を鑑みると、対象はどう示されていくのかなという印象を持ちました。
田代部会長	その点については、事務局いかがでしょうか？
事務局	以前、D委員からも本部会の対象というところのご質問をいただいたと思うのですが、我々といましては幼児教育の対象を考えたときに、当然幼稚園だけでなく保育園や様々な就学前の施設を対象としておりますので、３歳以上ではなく、３歳未満も踏まえて考えているところでございます。
田代部会長	では先ほど小学校との接続の部分で小１プロブレムというお話も出ておりましたが区立小学校長はいかがでしょう？

区立小学校長	小学校の校長としてもそうですが、園長代理者ということで両方見させてもらっていますが、とてもいい機会と思っています。 小 1 プロブレムもあるのですが、私が思うのは、小学校の教員の方が園児をあまりよく知らない。また、園児の園での活動についてもよくわからないということがあります。 幼児が小学校に入学したときに、教員の方はどうしても赤ちゃんのように何もできないのではないかと気持ちが残っています。こういう認識を学校側で直していかなければと思っています。うちの教員も夏休みに幼稚園に訪問し、どういうことをやっているのか見学させましたが、これからもそういうことをやりながら、1 年生ができることを考えていかなければならないと思っています。 ですから、学級がうまく機能しないのは、教員の方の理解不足というところも多々あるのではないかと感じております。 もう一つは幼児教育の方針のところで、すごくよくまとめていただいております。遊びを通した主体的な学び、これが一番大事というところを強調していただいたのがすごくありがたいと思います。 今、池袋幼稚園は遊びを中心にして、人との関わりについて研究を深めておりますが、まさに小学校の方でも全く同じで、地域の人たちととにかく関わることを今、池袋小でやっておりますので幼稚園の方でこういうことをやっていただけると小学校の方でもその人との関わりを連続していくことができるのではないかと考えております。 以上でございます。
田代部会長	区立小学校長のような委員の先生に入っていて、幼稚園と小学校が本当に接続していけたら、そしてそれが区内に広がっていったら本当に素晴らしいなと今感じながら聞かせていただきました。 概ね委員の先生方のご意見が反映されているというところをご確認できたようですので、よろしいでしょうか。 改善点なども少し出てまいりましたので引き続きよろしくお願いいたします。 それでは続きまして議題 3 について、事務局よりご説明をお願いいたします。
事務局	(議事 3 の説明)
田代部会長	これからの幼児教育が発展していくためのいろいろな政策をまとめていただきましてありがとうございました。 では委員の皆様からご意見はございますか。 小学校との接続について、区立小学校長いかがでしょうか。
区立小学校長	3 ページの 1 番ですが、この内容について、小学校ではやっているところが多いのではないかなと思っています。 ただ、それが本当に成果として表れているのかというと、自分が見ていた限りでは、そんなに見えないというところがあります。それが日常化できてないというのがまず第 1 の課題かと思っています。ほぼイベントとなっており、例年やっているから実施するというような形になっていて、これは小学校の教員の方が考えなければいけないところかなと思っています。 2 番の方は、とてもいいことだなというふうに思います。 やはり私達は幼稚園の園長先生や保育園の園長先生はあまり関わらないので、こういう時間をとっていただけるのであればすごくありがたいと思います。 3 つ目も本当にいいなって思っています。今、小中連携というのをやっておりまして、まず先生方の顔を知って、学校を知ることがあるのですが、先ほど申し上げましたように保育園も幼稚園の先生たちも、そこまで目が回らないっていうのが実情的なところですので、意図的にこういった会を作っていただけるというのは本当にありがたいなと思っています。 7 ページのモデル実施の検討というところで、これが池袋幼稚園を見ていて思うのはすごくいいことであると思っています。

	今の人員では難しいと思いますので、これは区の方がどういうふうにお考えになってどういう配置をしていただけるのか、というところでもっと具体的に示していただけるといいのかなと思います。 それから、朝と昼間と夜とこのぶつ切りになっている預かり保育の時間をどう一貫した幼児教育に繋げるのかというのが課題だと思っています。 以上です。
田代部会長	確かにモデル実施のこのケースを検討していくにあたっては、やはり人的措置や予算も関係してくると思いますので、ぜひどういう形ならモデル園が実現できそうか、そのあたりも具体的に進めていただけたらと思います。 また今、区立小学校長からお話が出ていましたけれども幼稚園、保育園の子供たちと小学校の児童との交流も質の問題なのかなと思って聞いておりました。 イベントとしてやっている学校区もあればその経験が重なるように相手と常に同じペアで交流活動を実施しているところもありますので、そういった取り組みができるという意味があるということをぜひモデルケースとして発表していただきたいと思います。 それが区内に広がることで、形骸化したイベントとしてやる交流活動ではなく、その中で本当に子供と子供が繋がっていくような関係性ができると思います。またそれが入学後の新1年生と6年生の関係として継続するような交流を考えて、質と量の両方を広げていくことができたらいいいと思いながら伺っておりました。ありがとうございます。 接続のあたりについてはF先生もお詳しいと思いますので続けていかがでしょうか？
F 委員	まず、接続の点ですが、これだけいろいろな交流があり、区立小学校長もおっしゃっていたように、校長先生と園長先生というのはやはりすごく鍵になるところだと思います。 校長先生や園長先生が理解してくださることによって、進むか進まないか決まるというのは他自治体でもよく聞くところなので、やはりとても重要なところを入れてくださって感謝申し上げます。 四つ目のアプローチスタートカリキュラム研修の実施ですが、この実施についての中身がアプローチスタートカリキュラムをどういうふうに作っていき、それを各園や学校でどのように生かしていくかというのが今中心かと思っています。 できれば保育とか授業をお互いに見合うような機会が入ってくると良いかと思っています。一昨日、他の区での研修に参加したのですが、そのときに小学校の先生からこれから子供たちの学びを保障していくときに、例えば生活科だと朝顔を育てるのにリースを作ればいいというふうに思っている小学校の先生もいるという話があり、生活科の本当の意味を学ぶためには、幼稚園や保育園の環境構成というところから、学ぶことが大きいのではないかというお話が小学校の先生方からありました。 そう思うとカリキュラムレベルだけではなくて、逆に幼稚園・保育園の先生が小学校の授業を見ることで、自分たちが保育をする上で何を行うことが大事か意識して保育をすることで小学校以降の教育の土台になっていくのかを振り返る機会にもなると思いますので、カリキュラムレベルだけではなくて実際に保育や授業を見るという機会が入ってくるといいのではないかなというふうに思いました。 それから幼児教育センターの取り組み 2 ページのところですが、(1)幼児教育の質の向上というところでどちらかというと支援の必要な家庭や園児が中心となるような幼児教育センターのイメージに読めるのですが、もう少し幼児教育センターの機能を考えたときに、幼稚園と連携してどのような研修をやったらいいいのかという本当に質の向上をベースにしながら、支援の必要なお子さんやご家庭にも行っていくにはどうしたらいいのかというようなところも考えていただけたらいいのではないかと思います。 幼児教育センターは指導課に設置予定ということですが、こちらに行かれる職員の方というのは、やはりベースとしては教育委員会ということになるのでしょうか。

事務局	組織のところは、決定ではないのですが杉並区のように実際の園と幼児教育センターが一緒になるというのも非常にいいと思うのですが、ハード面の課題があります。一方でこの幼児教育センターというものは、保幼小連携を強化していくとなったときに必要になるもので、他の自治体ですと大田区やさいたま市など教育委員会に設置しています。様々な方法を考えた中で本部会としてのご意見を伺いたいと思っております。
F 委員	もし可能であれば幼児教育に関して、幼児教育センターに現場からいらっしゃる方もいると思うのですが、そのときに幼稚園だけではなくて保育園からも職員の方を入れていただけると、連携がスムーズに進み、様々な観点から考えることができるかと思います。
田代部会長	他区では退職された幼稚園や保育園の園長先生がそこに在籍して関わっていたりするのでそのようなことをお考えなのではないかなと思いますが、いかがでしょうか。
事務局	おっしゃるとおりです。他区だと教育委員会に保育士が兼務になっていたり、さいたま市は、豊島区で言う子ども家庭部に幼児教育センターがあるのですが、逆にそこに教員が兼務で入っていたりすることがありますので、検討していきたいと考えております。
田代部会長	今アプローチカリキュラム研修の実施だけではなくてその中身についても言及していただけたように思います。 ぜひそういったことも記録に残してそのような研修ができていくといいかなと思いました。 続いて他に意見のある方いらっしゃいますでしょうか。 D 委員お願いいたします。
D 委員	すぐく多岐に渡ってお話いただいたので、いくつか私の方でも簡単に意見と考えを言わせていただければと思います。 この小学校との円滑な接続は、すぐく私どもも望んでいることで年長の園児と小学校児童の交流というのはすぐくありがたいことです。 幼稚園側からお願いするとどうしても授業を見せてくださいってということだけになってしまって、授業の様子を見に子供たちを連れて行って授業を見せていただいて、コロナ前だと今度は校庭で遊んでいるところに少し混ぜていただいて遊ばせていただいてということもありました。 実はそれ以外にもコロナ前ですと、小学校側から声をかけていただいて、1.2 年生と年長児でペアを作り、今度は1.2 年生が幼稚園に来てくれて幼稚園の中で、年長児といっぱい遊びまして、その後今度はしばらく置いて、私ども園児が小学校へ行ったときに1.2 年生の部屋でいろいろなプレゼントがあったり、考えてくださったことを一緒に遊んで、その後私ども園児が今度はお礼の手紙を書いて、それを持っていったとか、そういう特定のお子さん同士で交流を持ったりしたということがありました。 ただ、どうしてもそういう取り組みは、声かけてくださった先生や校長先生とか学年の先生が異動されてしまうと終わってしまい、なかなか続きません。 そういうただ見るっていうだけではなくて、一緒に関わってさっきも話が出ましたけれども、何か1 回だけじゃなくて複数回一緒に関わられるような取組があると嬉しいかなと思います。 また、小学校の先生はとっても忙しいとは思いますが、ぜひ幼稚園に来ていただいて幼稚園ってどういうことをやっていて子供たちはどんな様子なのかということを見ていただければと思います。 申し訳ない言い方をしますと先ほども区立小学校長からもお話が出ましたが、以前に幼稚園・保育園の5 歳児が小学校へ行って、幼稚園、保育園は4 歳3 歳2 歳になるようなことが検討された時期がありました。 そのときに私どもはもう幼稚園が成り立たないっていうふうにすごく思ったんですね。5 歳児が本当に幼稚園の中で生活を引っ張ったり小さい子たちの面倒を見たりいろいろなことを自分たちで考えたりっていうことで、5 歳児がいないと集団が成り立たな

	いのです。 そのくらい 5 歳児って、幼稚園、保育園の中ではすごくしっかりしているのでその子たちが小学校へ行ったときに、さっきもお話がありましたけど何もできない赤ちゃんというふうになってしまって状態や意識が下がってしまうっていうのをすごく残念だなと思っています。幼稚園の中や保育園の中で、年長児がどのように生活してどのように考えていろんなことをやっているのかということを経験小学校の先生にも見ていただけると嬉しいなと思っています。 もう一つは外国籍のお子さんとか支援が必要なお子さんですけれどもうちの園にも外国籍のお子さん何人かいらっしゃいますし支援の必要なお子さんや特別な支援が必要なお子さんも複数名いらっしゃいます。そういう受け入れの仕方をしている私立幼稚園は今少なくないです。 私立幼稚園の園長会の中でも、私立幼稚園が豊島区からも豊島区の住民の皆様からも本当に私立幼稚園が必要だと思っていただけるには、やはり外国籍のお子さん支援の必要なお子さんも私立幼稚園がしっかり受け入れていかないとけないというのが今幼稚園の中では私立幼稚園園長会の一つの話題になっています。 ただそのときにぜひ、支援の必要なお子さんに対して接し方を教えていただきいろいろアドバイスしてくださるアドバイザーの方が、定期的に幼稚園に来てくださるとすごく私どもも心強いというふうに思っていますので、そういった意味からもセンター機能を充実させていただいてやっていただけると嬉しいかなと思います。 先ほどお話も出しましたが、今、豊島区では、いわゆる私立幼稚園も区立幼稚園もそれから保育園も幼児教育というのをすごく意識してしっかりやっていると思います。 ですから、今の豊島区の園児数、幼児数から考えますと区立幼稚園が認定こども園化をしなくても、やはり幼児教育センター機能をしっかり持たせながら公立幼稚園、私立幼稚園、保育園がしっかり連携をとって行って、そして小学校とも連携をとっていただければ豊島区の幼児教育もしっかりと支えていけるのではないかと思いますので、5 ページの最後の方に出てくる待機児童ゼロや預かり保育の拡大、給食の提供、幼保小連携強化相談機能の充実で代替するっていうことについては私もその通りだなと思っています。 たださっきも区立小学校長からもお話が出ましたが、預かり保育というのはすごく人員的に大変ですごく職員も疲れます。 ですから私どもにとってもそうですし、公立幼稚園さんにとってもそうですし、預かり保育を充実させていったときにはぜひ職員が余裕を持って子供たちと接することができるよう、気持ちの余裕も含めてぜひ区の方で考えていただいて、そのモデルをもしお作りになるのであれば、それが私立幼稚園でも利用できるような私立幼稚園でも考えていけるような形で実施していただけるとありがたいですし、いろんな情報を出していただけるとありがたいというふうに思っています。 以上です。
田代部会長	交流活動についてはまたお互いに行き来するというようなことですか、継続して子供同士の関係を作りながら交流活動をしていくことですか、いろいろ示唆をいただけたと思います。 また、他区では私立の幼稚園さんではなかなか障害のあるお子さんや特別な配慮が必要なお子さんなどは受け入れてもらえない園が多いとお聞きます。 断られたということで、公立幼稚園に泣く泣く受け入れてもらうようなお話もたくさん聞かれています。D 委員が私立の幼稚園の代表として豊島区内全体でどこの園でもいろいろなお子さんを受け入れていく方向で進んでいかれるとしたら、豊島区は素晴らしいなと思います。 ぜひ私立も公立も全体でいろいろな子供たちを受け入れて今日の提言をまとめていただいたように、全ての子供たちにとってよりよい就学前教育が受けていかれるようにこの委員会で進めていかれたらなと思っています。

	だいぶお時間が過ぎてきてはいるのですが、まだご意見いただいていない Q 委員や高橋委員何かございますか？
区立幼稚園長	私も本当にそうだと思っております。 少し細かいことで質問がありまして、6 ページ目と 4 ページ目の図のところで区立幼稚園の方向性ということで本当に私が何をしなくてはいけないかを考えているのですが、(3)の区立幼稚園に対する役割の地域人材や NPO 団体などとの連携とありまして、私立幼稚園もそうだと思いますが、地域に支えられながら熱い応援とか、区の方でいろいろな団体を紹介していただいて、活用はしているのですが、4 ページ目の、例えば連携イメージとの具体的に何かこの(3)で地域人材の NPO と入れていただいたところへの想いってというか、そのあたりをもう少し詳しく聞いておきたいと思っています。 今のままでいいのか、それとも地域を巻き込んで何かするのか、もしそれが 4 ページ目の図に、何か少し他に細かい粒で障害児とか外国籍と書いているので、もし何かイメージがあれば、すみません小さなことですが、少し自分が実際にやるならと思ったもので、今の範囲で教えていただければと思います。
事務局	区立幼稚園が地域の団体や NPO と協力して、例えば南長崎ですとトキワ荘などもあります。どんどん連携をして園児にその文化体験や音楽体験をやっているという区立幼稚園としての機能というのがあるというところを含めて期待される役割というところに記載をさせていただいております。 イメージ図の方に入れるとすると、区立幼稚園の子の下とかにこういうことをやるか入れることになると思うのですが、少し図が見づらくなってしまったりする関係もありますので、この図には落とし込んでないというところですね。
区立幼稚園長	モデルというかいろいろ調査研究の場と入っているので実践も含めて、そういうことも含めたことを実際やってみるというようなイメージでいいですか。 そして、それが区のモデルケースとして、みんながその中からこの要素は自分の園でも取り入れてみようとか、示していただいた研究成果などを私立の園や保育園などでも使ってみようとか、そういうところでリーダーシップを発揮していただきたいと思います。
田代部会長	Q 委員何かあればお願いいたします。
Q 委員	一つ保育園側から少し気になったことがありまして、幼児教育センターは本当に望むところで本当にありがたいところではあるのですが、保育園に相談に来る地域の親子の方で多い内容が、子育てがわからないや発達がわからない、また自分の親に聞いてもこれは間違っている早くオムツを取った方がいい、1 歳ではもう取れるだろうみたいな古い話で迷われ、悩む保護者の方も多いので、そういった親子が子育て相談できるようなポイントがあったらいいのかなと思います。保育園に地域の方が来られる保育所体験できる機会を設けているのですが、一番人気なのが離乳食講座です。 実際のものを見てどんな育ちがあるか、発達があるかというところが一番気になっているようですので、幼児教育センターのところでもそういった子育ての相談ができる場所があるといいのではないかと思います。 それから認定こども園については、実際のところ保育園の方の空き状況がありますので、本当に何が必要かこの待機児童というのはもう解消しているのではないのかなということをおもっております。 その上で、保育の質の向上やその乳児の育ちがどれだけいろいろな体験で必要なのか環境が全て大事ですのでプレーパークのような自然の中で育つような幼児教育を進められたらというのが理想であると思っています。 よろしくお願いします。
田代部会長	確かに子育て相談は現場の保育園でたくさんの相談を受けていると思います。 そういった方々の相談の内容やノウハウなどをセンター機能のところに集約していつて、またそういうことに長けている公立保育園などの先生方からもいろいろ教えてい

	ただいたりご意見いただいたりして、センター機能の充実に繋げていかれたらと思いますので、よろしくお願いいたします。 私も現在、池袋幼稚園とそれから池袋第 5 保育園が分園の形で認定こども園化するというお話を聞いておりましたが、聞いていた段階からかなり厳しいなということを感じておりました。 本当に小さい子供たちがたくさん過ごす場になる、そういった場がハード面で一つにできない、そして距離は近いとはいえども少し離れたところで、それぞれが活動している中で管理者は両方で 1 人しか置かれないというようなことも聞いておりました。区が進めるこども園として、いろいろと課題が多そうな状況で進めていくよりは一旦ここで現在の状況などを踏まえて見送ることは英断だったのではないかなと思います。 その代わりに幼児教育センターに力を入れることですか公立の幼稚園がその中で両輪となって、区のモデルを示していくような、そういう役割として存在意義を発揮していけるのであれば、大変いい形で進んでいくのではないかなと思っています。 今までの中には出てきておりませんが保護者のニーズとしては 3 年保育をやってほしいという声もあります。 そして現在日本の幼児教育はほとんど 3 年保育が中心で本当のモデルとなっていくには 3 年保育も必要なのではないかなと個人的には思います。しかし、今の豊島区の現状はその定員数に対して実際の定員の方が多く余っているということもありますので公立がそこで定員を増やすわけにはいかない状況なのは十分承知しております。 最後に私見を述べさせていただきます。
D 委員	3 年保育という話がありましたが、東京 23 区で考えますと、大田区に公立幼稚園はありません。足立区は全て認定こども園ですので 21 区です。 豊島区を含めました 9 区が公立幼稚園は 2 年保育です。残り 12 区のうち 1 区は 14 園あるうち、11 園が 2 年保育 3 園は少人数で 3 歳までの混合保育です。 そういたしますと、23 区内で公立幼稚園が 3 年保育をやっているのは半分です。 ですから、公立幼稚園ということで考えますと、3 年保育がスタンダードではないということがあります。私立幼稚園が今、園児数が本当に豊島区は激減してしまて 20 人 30 人になってしまったという幼稚園も少なくございません。 うちの幼稚園は 150 人から 100 人、もうすぐ多分 90 人ぐらいになっていくだろうなって考えておりますので、私どもとしても公立幼稚園は 23 区内では半分しか 3 年保育をやっていないということも、ぜひご理解いただいて、やってない区はおそらく私立幼稚園の保護も考えてくださっているということですので、私どももその代わり支援の必要なお子さんとか、外国籍のお子さんも積極的に受け入れていこうというところを園長会で働きかけをしておりますので、そこもご理解いただければと思います。
田代部会長	私立幼稚園が幼児教育をずっと担ってきてくださっているのです、そちらが収束していくようなことに区がしてくことは本望ではないとも思っています。 私立幼稚園がずっと幼児教育をしっかり担ってきてくださった背景については本当に尊重していきたいと思っています。 言葉が足りず、申し訳ございませんでした。 ということで本日の議題は以上となります。皆様ありがとうございました。